「いわての復興教育推進事業(いわての復興教育スクール〈沿岸〉)」成果報告書

学校名:岩手県立大船渡高等学校定時制

I 事業の概要(地域の実情含む)

本校は大船渡市の高台にあり、2011年に発生した 東日本大震災の際には校舎への被害はなかったも のの、多くの生徒が被災し、甚大な津波の被害を目 撃している。また、ライフラインの断絶により避難 生活を送った経験を持つ。町は防潮堤を建設し、復 興しつつあるが、地理的状況から地震や津波のリス クは依然高い。昨年度、震災学習列車への経験を通 して、生徒の防災意識は高まっていると感じている。 そこで、復興教育を推進し、生徒に生きる力を身に つけさせると共に、地域の担い手として育成したい。

Ⅱ 取組の概要

1 避難訓練実施

消防士を講師に火災を想定した避難訓練を実施し、水を使った消火訓練も実施した。消防士の方々が見守る中、生徒達は緊張感を持って速やかに避難できた。避難の際には教員がしっかり声を出して誘導するよう指導していただいた。

消火訓練では、消火器の使用方法を教えていただき、水が充填された消火器を使って的をめがけて放水した。消火器の重さと噴射の勢いを体感でき、実際に使用する際の参考になった。

2 防災講話実施

市の防災士を講師に、災害発生時に身近にあるポリ袋や乾物を使った炊飯・調理を行った。また、新聞紙を使って器を一緒に制作して試食を行った。

ご飯、野菜のおかず、サラダ、汁物を調理した。 一人一袋のポリ袋を使うことで、年齢や好みに応じた水分量で炊飯できた。また、味付けの種類や濃さも個別にできるのでポリ袋調理は様々な年齢や人で調整できることがわかった。

備蓄の重要性に加えて、身の周りのものをうまく 使い、ガスや水など資源を無駄にせずに手早く調理 することの大切さを学んだ。

生徒ふりかえりシート(防災講話)

- ・自分の好みで味を変えられるのが良いところだと思った。(1年男子)
- ・ごはんの水加減が大変でした。私は少し入れ すぎてしまいましたが、これで大体の加減を 知ることができてよかったです。(1年女子)
- ・お米もスープもポリ袋に入れて作ってみましたが、普通に作った時のようにおいしくできたのでびっくりしました。もし災害が起きたときには、今日学んだことを生かして作ってみたいなと思いました。(2年女子)
- ・今日の講話を受け、今自分たちが普段生活している日々を普通と思ってはいけないということを改めて思いましたし、それと同時に普段取っている食事へのありがたみを改めて感じることができました。(2年女子)
- ・ポリ袋がこんなに便利なのだと気づき驚きました。ゴミとして普段捨ててしまうものでも、よく考えて使うことで命をつなぐことができると知ることができました。もしもの時に今日のように調理できるようにしたいです。(3年男子)
- ・私が震災の時は、話を聞いたよりも、ずっと 良い環境でした。住んでいた地域には波が来 なかったので、米や食べ物を家から持ち寄る ことができました。発電機も公民館にあった のでストーブやテレビもありました。毛布も あったので、寒さなども大丈夫でした。でも ご飯は少なかったです。もし大人になって震 災にあったら、周りに優しさを分けられるよ うになりたいです。(3年女子)
- ・今日の防災講話で食べ物の大切さを知ることができたし、新聞などを器にすることで洗わなくても食事ができるのだと分かりました。 ある物でしっかりと食べ物を作ることができるのだと思いました。防災を学ぶことができて良かったです。(3年女子)

3 震災以降にて防災学習の実施

気仙沼市にある震災遺構に見学に行き、津波ビデオや語り部ガイドの話から津波や被害状況、人々の様子について学習した。

人々の様子については辛い記憶ではあるが、警報が出た際に躊躇せずに速やかに非難することを学んだ。また、遺構に残されたものから、どこにどうやって避難するべきか貴重な教訓を得ることができた。津波から身を守るための様々な知識について学ぶことができた。

見学後のバス車内では震災当時幼かった生徒達が 震災を忘れずにいることの大切さについて改めて 感じている発言が多く聞かれた。

4 震災遺構での防災学習の振り返り学習の実施 震災遺構で学んだことをグループでまとめさせ、 意見交換を行った。津波は何度でも来ること、避難 したからと安心せずに、さらに高いところへ逃げる、 戻らない、車を使わない、事前に家族と避難する(集 合する)場所を決めておくなど様々な意見が出され、 ガイドから聞いたこと、感じたことを全員で振り返 るよい機会となった。

時間の最後には、津波についての知識、避難する ための方法を覚えておかなければならないという 意見が出された。しかし、東日本大震災から8年が 経過し、風化が危惧され、現在の小学生たちは震災 後に生まれていることを挙げ、周りの人や震災後に 生まれた世代の子ども達に伝えることが大切であ ることにも触れた。

生徒の感想 (震災遺構)

- ・色々と考えさせられ、小学校だった時の記憶がよみがえってきました。震災の恐ろしさを 改めて感じました。忘れちゃいけないですね。 (3年男子)
- ・自然の怖さを改めて感じました。これから自立した時に、今回の事を思い出していきたいです。(3年女子)
- ・気仙沼でどのような被害を受けたか知ることができました。この出来事は一生忘れてはいけないことを知りました。これからも心に刻んでいたいと思います。(2年男子)
- ・校舎の中に入るだけで急に日常が消えてしま うような感覚になりました。テレビで取材さ れていたときには感じることができないもの なので行けてよかったと思いました。(2年女 子)

- ・自分のふるさとが大変な時に何もできず、罪 悪感が強かったことを覚えています。起きた ことを忘れることがないように生活していこ うと思いましたし、広めていこうと思います。 (2年女子)
- ・たくさんの震災映像を目にして当時を思い出 して泣きそうになりました。津波がくるぞと 言われてから秒で波が町を飲み込んでいきま した。車などは使わずに自分の足でまず逃げ る、これだけは頭の片隅においておこうと思 いました。(2年女子)
- ・ニュースでは見ることのできない、ニュース より緊張した感じが凄い伝わってきました。 薄れていく震災の記憶を忘れないようにして いきたいです。(3年女子)
- ・自分が今回見聞きしたことや、自分が当時体 験したことを次の世代へと伝えていくべきだ と思いました。(4年男子)
- ・記憶があまりない部分もあったので、勉強になりました。「一人一人で自分の命を守る」という言葉を思い出し、車はそこに置いていち早く逃げたいと思います。映像の中で1番心に残ったのは卒業生の映像です。卒業生の中に制服を着ていないのは服をあげたからだと聞いて、りっぱだと思いました。(1年女子)

Ⅲ 取組の成果と課題

1 取組の成果

震災学習施設や外部の方々などの人材を活用して、 様々な観点から防災について学ぶことができた。

講話を聞くだけでなく、見たり体験したりしたことで生徒の防災に関する知識がより深まったと感じる。 今後も地域資源を活用したり、内陸の学校の生徒と交流したりして防災教育をすすめたい。

2 課題

時間を適切に確保できず、活動のみの実施が多く、 事前・事後学習が不十分であった。また、長期休業後 すぐに実施するなど、生徒への通知も不十分であった。 段階的に学習をすすめるために、今後は事前・活動・ 事後ともに年間予定に盛り込むなど、時間を十分に確

保し、計画的に実施していきたい。